

# ぼうえい

東海防衛だより

2024  
令和6年

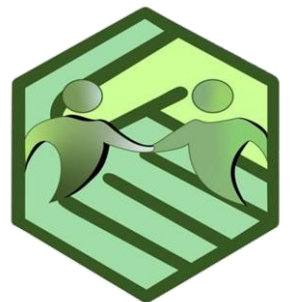
春



伊勢湾機雷戦訓練でヘリから降下する水中処分員（海上自衛隊掃海隊群HPより）

## 目次(主な内容)

- 1 防衛問題セミナーを開催(愛知県名古屋市)
- 3 防衛力の抜本的強化を支える東海3県の防衛生産・技術基盤
- 5 機雷戦訓練(伊勢湾)及び掃海特別訓練(日米共同訓練)
- 7 自衛隊と地方公共団体との連携
- 8 同志国等との連携 / 防衛施設の設置・運用に係る要望
- 9 海上自衛隊艦艇特別公開 / 三重県四日市港における政策広報
- 10 「愛三岐のまちから」 岐阜県各務原市



防衛問題セミナーを開催（愛知県名古屋市）



【第1部講演：防衛省整備計画局防衛計画課 中野憲幸課長】



【第2部講演：防衛省防衛研究所地域研究部中国研究室 飯田将史室長】

我が国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、令和4年12月、国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画を閣議決定し、防衛力の抜本的強化を進めています。そうした中、東海防衛支局は、防衛力の抜本的強化が必要な背景や具体的な内容について、広く国民の皆様に理解をしていただけるよう、令和6年2月29日（木）、防衛本省及び防衛研究所から講師を招き、名古屋市中小企業振興会館吹上ホール（名古屋市千種区）において、防衛問題セミナーを開催しました。

来場された約二百名の方々は、熱心に聴講し、質疑応答では、時間の都合により、質問希望者全員を指名することができない状況となるなど、改めて、防衛力の抜本的強化に対する関心の高さが窺えました。

当支局としては、皆様からいただいた意見も踏まえ、今後も多数の方の参加が得られるようなセミナーを企画・開催してまいります。

令和6年度 東海防衛支局

## 防衛問題セミナー

第1部 新たな国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画  
講師：防衛省整備計画局防衛計画課長 中野 憲幸

第2部 台湾情勢と東アジアの安全保障  
講師：防衛研究所地域研究部中国研究室長 飯田 将史

参加無料  
事前申込不要  
当日会場へお越しください

2024年2月29日（木）18:00～20:30 (17:30 開場)

名古屋市中小企業振興会館  
吹上ホール7Fメインホール  
名古屋市千種区吹上2丁目6-3

主催：防衛省東海防衛支局 問い合わせ先：東海防衛支局 施設企画課  
Tel: 052-952-8239 Email: tokaiseminar@hikishu.rsf.mod.go.jp

## 主催者挨拶

講演に先立ち、主催者である東海防衛支局の宮原賢治支局長は、挨拶の中で、「我が国を守るには、自衛隊が強くなければならないことは当然ですが、国全体が連携しなければ国の防衛は成し得ません。この東海地域には防衛生産・技術基盤も多くあり、防衛力の抜本的強化の取組は、皆様の生活に近いところに存在しています。自分たち自身の問題として国の防衛に関心を持っていただけるよう、今日のセミナーの話を持ち帰り、職場や家庭で話題にしてください。」と来場者にお願いとともにも、本セミナーの開催に協力をいただいた方々への感謝を申し述べました。



【東海防衛支局 宮原賢治支局長】



【防衛省整備計画局防衛計画課 中野憲幸課長】

## 第1部 新たな国家安全保障戦略、 国家防衛戦略、防衛力整備計画

第1部では、防衛省整備計画局防衛計画課の中野憲幸課長が「新たな国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画」と題して講演を行いました。

講演では、ロシアのウクライナ侵略で用いられた新しい戦い方や中国・北朝鮮の軍事活動の実例を挙げながら、防衛力を抜本的に強化する背景事情、スタンド・オフ防衛能力や統合防空ミサイル防衛能力などの防衛力の抜本的強化の具体的な内容、防衛予算などについて詳しく説明しました。

その上で、侵略の意思をくじく抑止力と侵略を阻止する対処力が私たちの日常を守り抜くと締めくくりました。

## 第2部 台湾情勢と東アジアの安全保障

第2部では、防衛省防衛研究所地域研究部中国研究室の飯田将史室長が「台湾情勢と東アジアの安全保障」と題して講演を行いました。

講演では、台湾政治及び台湾世論の動向、中国による台湾統一のアプローチ、台湾への軍事的威嚇を強化する中国、台湾周辺地域の緊張を高める中国軍の活動、中国軍とロシア軍との連携の進展などについて、専門的な見地から詳しく説明しました。

その上で、台湾海峡の平和と安定が損なわれることは、日本の安全保障にとって重大な脅威であり、台湾の戦略的重要性は高まっていると締めくくりました。



【防衛省防衛研究所地域研究部中国研究室 飯田将史室長】

防衛力の抜本的強化を支える  
東海3県の防衛生産・技術基盤  
③無人アセット防衛能力、④領域横断作戦能力

今号では我が国の防衛上必要な7つの機能・能力のうち、「無人アセット防衛能力」及び「領域横断作戦能力」について説明し、その装備品などの契約状況の一部を紹介します。

無人アセット防衛能力とは

無人アセットは、有人装備と比べて、比較的安価であることが多く、人的損耗を局限し、長期連続運用できるといった大きな利点があります。

さらに、A-1や有人装備と組み合わせることにより、部隊の構造や戦い方を根本的に一変させるゲーム・チェンジャーとなり得ることから、空中・水上・水中などでの非対称的な優勢を獲得することが可能になります。

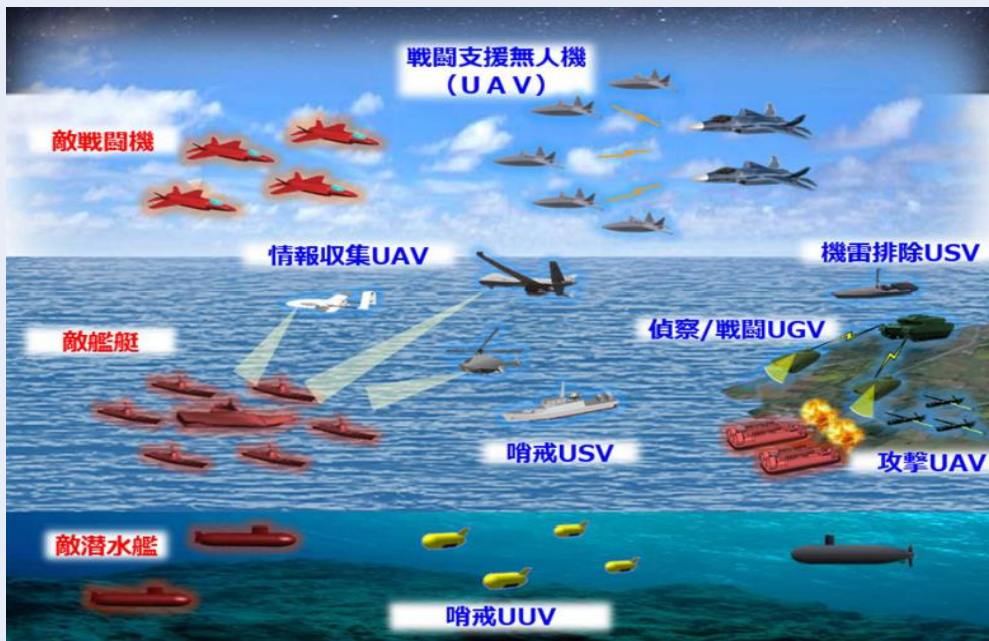
無人アセット防衛能力強化の取組

まずは、無人アセットを早期装備化やりやすなどにより導入し、幅広い任務での実践的な能力を獲得します。

その後、無人アセットを用いた戦い方を

更に具体化し、我が国の地理的特性などを踏まえた機種の開発・導入を加速し、本格運用を拡大します。

その一例として、現在、三菱重工業(株)小牧南工場においてA-1を実装可能なFTB(※2)無人機の試作を、川崎重工業(株)岐阜工場



【陸・海・空・水中での無人アセット(イメージ)※1】



【FTB無人機(イメージ)※2】



【ドローンによるスウォーム飛行(イメージ)】

においてドローンによるスウォーム(群れ)技術に関連する研究を行っています。

領域横断作戦能力とは

万が一、日本が侵攻された場合には、陸・海・空の領域と宇宙・サイバー・電磁波の領域の全ての領域を横断的に連携させた作戦、すなわち「領域横断作戦」により対処します。そして、無人アセットも含めたあらゆる手段を使って、敵よりも優位に立つ状況を確認し、速やかに、かつ粘り強く活動を続け、敵に日本を攻めることは不可能だと諦めさせます。

各領域における取組

① 宇宙領域

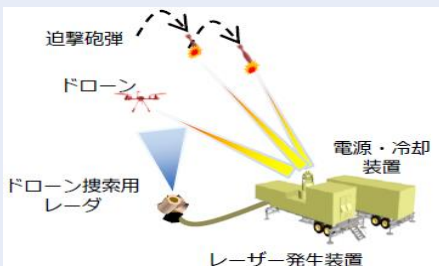
多数の小型人工衛星が一体となって様々な機能を担う衛星コンステレーションを含む新たな宇宙利用の形態を積極的に取り入れ、情報収集、通信、測位などの機能を宇宙空間から提供させ、陸・海・空の領域における作戦能力を向上させます。

※2 FTB: Flying Test Bed (実験用航空機)の略

※1 UAV: Unmanned Aerial Vehicle (無人機)の略  
USV: Unmanned Surface Vehicle (無人水上航走体)の略  
UGV: Unmanned Ground Vehicle (無人車両)の略  
UUV: Unmanned Underwater Vehicle (無人水中航走体)の略



【領域横断作戦のイメージ図（一例）】



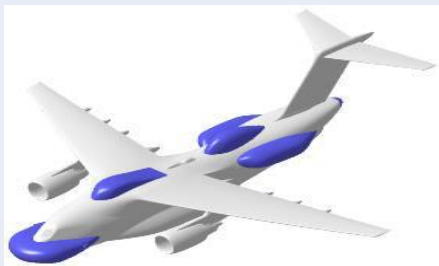
【高出力レーザーに関する研究（イメージ）】



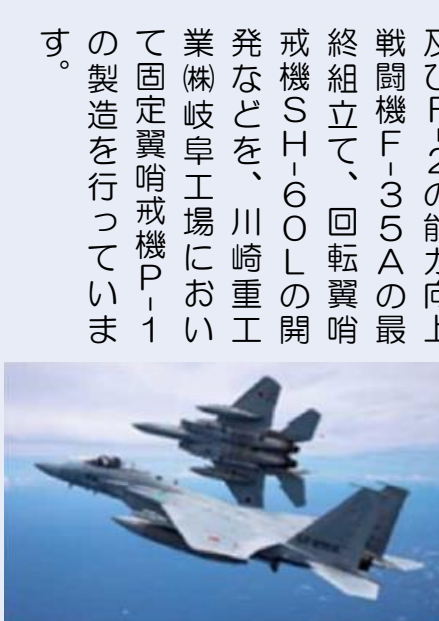
【車両搭載型レーザー装置（イメージ）】



【固定翼哨戒機 P-1】



【スタンド・オフ電子戦機（イメージ）】



【戦闘機 F-15】

（写真、図は全て防衛省HPより）

② サイバー領域  
防衛省・自衛隊において、能動的サイバー防御を含むサイバー安全保障分野における政府全体での取組と連携していきます。  
まずは、サイバー攻撃を受けている状況下においても、指揮統制能力及び優先度の高い装備品システムを保全できる態勢や防衛産業のサイバー防衛を支援できる態勢を確立します。

③ 電磁波領域  
相手方からの通信妨害などの厳しい電磁波環境の中においても、自衛隊の電子戦及びその支援能力を有効に機能させ、相手によるこれらの作戦遂行能力を低下させます。  
取組の一つとして、相手方の脅威圏外（スタンド・オフ・レンジ）から主に航空機への通信・レーダー妨害を行うスタンドオフ電子戦機の開発を行います。  
さらに、多数のドローンを活用したスウォーム（群れ）攻撃の脅威に有効に対処する観点から、高出力の車両搭載型レーザー装置の運用、高出力レーザーシステムの研究などを進めます。

④ 陸・海・空領域  
これらの電磁波領域における強化は、川崎重工業(株)岐阜工場においてスタンド・オフ電子戦機の試作と高出力レーザーに関する研究を、三菱重工業(株)小牧北工場において車両搭載型レーザー装置の試作を行っています。  
海上優勢・航空優勢を維持・強化するための艦艇・戦闘機などの着実な整備などにより、抜本的に強化していきます。そのため、既に着手している取得・能力向上事業を加速します。  
陸・海・空領域における装備品として、三菱重工業(株)小牧南工場において戦闘機F-15及びF-2の能力向上、戦闘機F-35Aの最終組立て、回転翼哨戒機SH-60Lの開発などを、川崎重工業(株)岐阜工場において固定翼哨戒機P-1の製造を行っています。

## 機雷戦訓練（伊勢湾）及び 掃海特別訓練（日米共同訓練）

我が国の防衛目標を実現するためには、我が国自身の防衛体制の強化、日米同盟の抑止力と対処力の強化、同志国等との連携の強化が必要です。

海上自衛隊は、令和6年2月1日から10日までの間、伊勢湾において、全国の掃海部隊から艦艇及び掃海ヘリコプターを集結させ、機雷戦訓練及び掃海特別訓練（日米共同訓練）を実施しました。

同訓練は、掃海艦艇や掃海ヘリコプターを使用し、機雷の除去・処分や敷設の訓練を行い、海上自衛隊の機雷戦能力の向上を図るとともに、米海軍水中処分員などの参加により、共同作戦能力の向上、日米同盟の抑止力と対処力の強化に寄与する、極めて重要な訓練となっています。

今回の訓練では、掃海艦艇に加え、護衛艦1隻（「くまの」）が初めて参加しました。

現在、海上自衛隊では、硫黄島、陸奥湾、日向灘及び伊勢湾の4か所で掃海訓練を実施しており、中でも伊勢湾は、年度を締めくくる総括的な訓練と位置づけられています。

東海防衛支局は、今後とも漁業関係者及び地方公共団体の皆様の御理解、御協力を得つつ、伊勢湾において機雷戦訓練及び掃海特別訓練が継続的に実施していけるよう丁寧に説明するとともに、平素から良好な関係構築に努めてまいります。



【衣浦港に入港する護衛艦「くまの」（海上自衛隊掃海隊群HPより）】



【機雷処分具を投入する様子】



【掃海艦「うくしま」（左）と「あわじ」（右）  
（海上自衛隊掃海隊群HPより）】

### 護衛艦「くまの」

- ▶ 「くまの」は、もがみ型護衛艦の2番艦として、2022年に就役した新型の護衛艦です。
- ▶ 従来型の護衛艦が担っていた警戒監視、有事における各種戦闘に加え、掃海艦艇が担っている機雷の処理など、多様な任務への対応が可能です。
- ▶ 艦名の「くまの」は、山上ヶ岳（奈良県）に発し、熊野灘（三重県から和歌山県）に注ぐ「熊野川」が由来です。



【処分艇に乗る日米水中処分員  
（海上自衛隊掃海隊群HPより）】

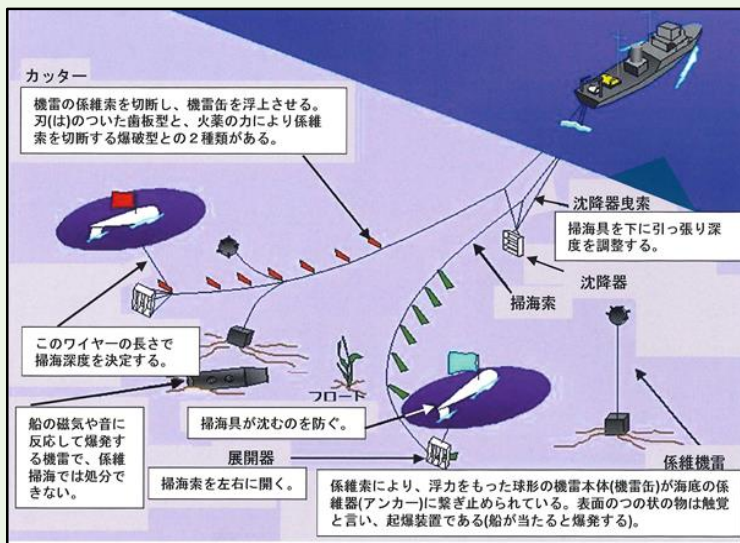
【機雷探知訓練中の水中処分員  
（海上自衛隊掃海隊群HPより）】



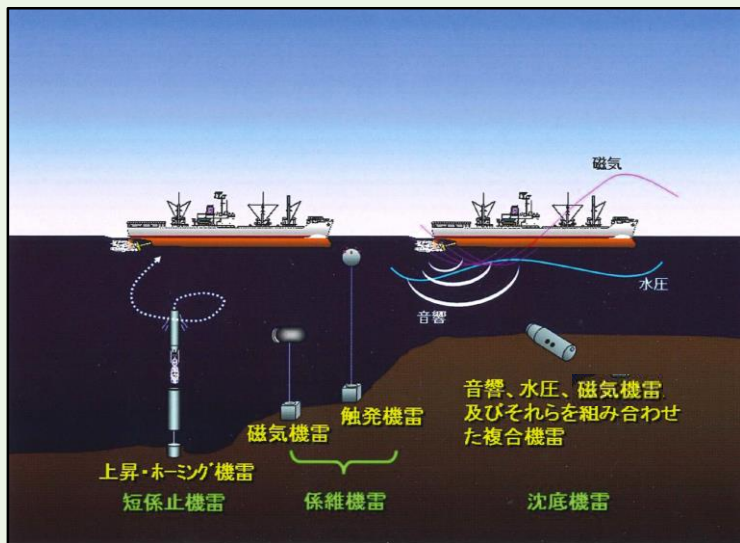
## 機雷の種類と対機雷戦

（海上自衛隊掃海隊群パンフレットより）

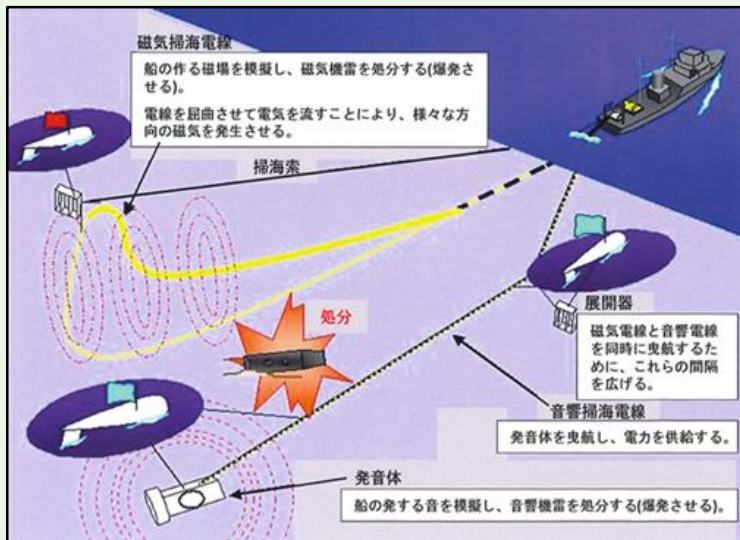
### 【対機雷戦（係維掃海）】



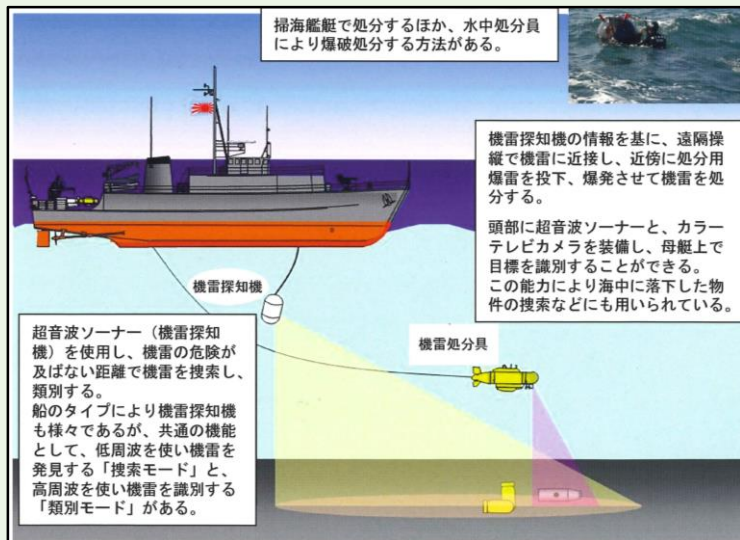
### 【機雷の種類】



### 【対機雷戦（感应掃海）】



### 【対機雷戦（機雷掃討）】



## 自衛隊と地方公共団体との連携 防災訓練への自衛隊の参加

防衛省・自衛隊は、各地で実施される防災訓練に参加し、防災関係の各機関や地方公共団体などとの間で、相互の関係構築及び強化に努めています。

### 三重県・鳥羽市・伊勢市 総合防災訓練

令和5年11月26日、三重県、鳥羽市及び伊勢市は、南海トラフ地震を想定し、津波による甚大な被害が予想される鳥羽市を中心に、離島や観光客への対応という地域特性も考慮した訓練を実施し、市と県、関係機関の災害対応力強化



【関係機関と連携した救出救助訓練】

と住民の防災意識の向上を図ることを目的として、「令和5年度三重県・鳥羽市・伊勢市総合防災訓練」を行いました。

この訓練には、防衛省・自衛隊から、三重県内に所在する陸上自衛隊（久居駐屯地、明野駐屯地）、航空自衛隊（笠取山分屯基地、白山分屯基地）の部隊、自衛隊三重地方協力本部のほか、海上自衛隊



【民間企業と連携した物資輸送訓練】

横須賀地方隊も参加し、関係機関と緊密に連携しながら、救出救助、物資輸送、被災者支援、避難所運営などの実践的な訓練を行いました。

このうち、物資輸送訓練では、海上自衛隊の多用途支援艦「えんしゅう」が海上輸送した救援物資を、岸壁で待機する民間企業の車両に積み替えて避難所へ輸送する一連の手順を訓練し、国、地方公共団体、民間の協力関係の強化を図りました。



【物資輸送訓練を視察する一見勝之三重県知事（右）と伊藤弘海上自衛隊横須賀地方總監（左）】

### 蒲郡市・海上自衛隊合同 防災訓練

令和6年2月10日、海上自衛隊は、愛知県蒲郡港において、伊勢湾沖を震源とする地震により、建物、道路が損壊、ライフラインが停止したとの想定の下、蒲郡市との合同防災訓練を行いました。

海上自衛隊からは、掃海母艦「うらが」が参加し、関係機関と緊密に連携しながら、陸上で待機する同市の給水車に水を供給する給水訓練、同市と災害協定を結んでいる民間運送会社のトラックに救援物資を積み替えて輸送する物資輸送訓練などの実践的な訓練を行いました。



【給水訓練における蒲郡市との連携】



## 同志国等との連携

### ベトナム防空・空軍司令官(空自) 岐阜基地視察

我が国の安全保障を確保するためには、一箇国でも多くの国々との連携強化が必要であり、防衛協力・交流を積極的に推進していくこととしています。

令和5年11月29日、航空自衛隊内倉航空幕僚長は、来日したベトナム防空・空軍司令官グエン・ヴァン・ヒエン中将と会談し、地域の安全保障環境などについて意見交換するとともに、日越空軍種間の協力・交流をより強固なものとしていくことで一致しました。

また、翌30日、ヒエン司令官は、航空自衛隊岐阜基地(岐阜県各務原市)を訪問し、ペトリオット・ミサイルやF-2戦闘機などの装備品を視察され、航空自衛隊の任務や装備品などへの理解を深められました。

航空自衛隊では、引き続きベトナムを始めとした地域の国々との空軍種間協力・交流を促進し、インド太平洋の平和と安定に貢献して行くこととしています。



【山本光伸 岐阜基地司令(右)から記念品を授与されるヒエン司令官(左) (写真提供: 岐阜基地)】



【F-2戦闘機を見学中のヒエン司令官(中央) (写真提供: 岐阜基地)】

## 防衛施設の設置・運用に係る要望

令和6年2月6日、東海防衛支局は、航空自衛隊岐阜基地に関連する愛知県内の4市町(大口町、扶桑町、江南市、犬山市)により組織される岐阜基地周辺市町連絡協議会から、同基地の設置・運用に係る各種施策に関する要望を承り、防衛省・自衛隊の対応を説明しました。

防衛力の抜本的強化に向け、国家防衛戦略に示す3つのアプローチ(①我が国自身の防衛体制の強化、日米同盟の抑止力と対処力の強化、同志国等との連携の強化)に沿った取組を進める中、防衛省の各種施策、自衛隊の活動を円滑かつ効果的に推進するためには、その拠点となる駐屯地、飛行場、演習場などの防衛施設周辺地域の皆様の理解と協力が不可欠です。

当支局は、引き続き、防衛施設に係る地方公共団体や住民の皆様の意見・要望に真摯に耳を傾け、防衛施設と周辺地域との調和を図る施策を誠実に進めてまいります。



陳情書の手交  
【協議会会長 鈴木雅博 大口町長(右)と宮原東海防衛支局長(左)】



要望の趣旨説明  
【協議会会長と幹事の皆様など】

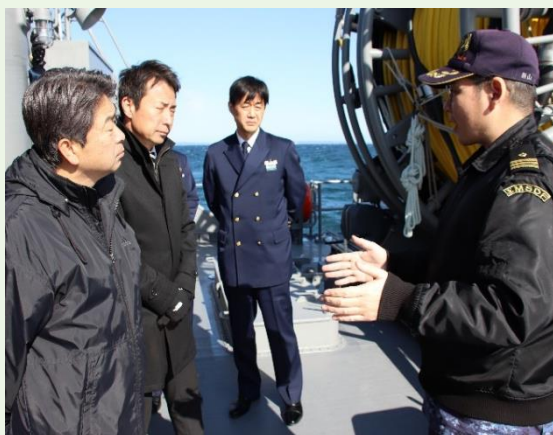
## 海上自衛隊艦艇特別公開

海上自衛隊は、令和6年2月1日から実施した掃海特別訓練の機会を捉え、衣浦港（愛知県武豊町）において、1月30日に護衛艦「くまの」、翌31日に掃海母艦「うらが」、2月2日には松阪港（三重県松阪市）において、掃海艦「ひらど」の特別公開を実施しました。

特別公開には、この訓練の実施に際し、多大な御協力をいただいている漁業関係者及び地方公共団体の皆様をお招きし、訓練の概況を説明するとともに、艦内及び装備品を見学いただき、



【掃海母艦「うらが」での特別公開の様子（畠山芳輝 武豊町長（右手前））】



【掃海艦「ひらど」での特別公開の様子】



【護衛艦「くまの」での特別公開の様子（山下三千男 愛知県漁業協同組合連合会会長（左端））及び漁業関係者】

機雷戦訓練などの必要性について、より一層理解を深めていただきました。

力業務  
協業  
地方  
確保  
地確

三重県四日市港における政策広報  
護衛艦「くまの」特別公開・一般公開

東海防衛支局は、令和6年1月27日、28日の両日、三重県四日市港で行われた護衛艦「くまの」の特別公開・一般公開に併せて政策広報を行いました。

護衛艦「くまの」は、2022年に就役した新型の護衛艦で、掃海機能も備えており、三重県では初の公開であったことから、両日合わせて3千名を超える方々に来場いただきました。

当支局は、岸壁に広報ブースを設置し、来場された方々に対し、展示パネルやパンフレットなどを使って防衛力の抜本的強化の必要性や取組について丁寧に説明しました。

防衛力の抜本的強化に必要な各種の施策を円滑に進め、我が国全体の防衛体制を強化していくためには、広く国民の皆様の理解と協力を得ていくことが極めて重要です。

当支局は、引き続き、自衛隊の行事などの機会を捉えて政策広報を行ってまいりますので、御来場の際には是非お立ち寄りください。



【政策広報：東海防衛支局広報ブース】



【一般公開：護衛艦乗艦の様子】



# 岐阜県

# 各務原市



ららら



あさの けんじ  
浅野 健司 各務原市長

## 【笑顔があふれる元気なまち】

各務原市は、岐阜県の南部、濃尾平野の最北端に位置し、市の南部には愛知県との県境となる大河木曾川が悠々と流れ、北部に目を向けると田園風景や山並みが広がるなど、豊かな自然に囲まれたまちです。市の中心部にある航空自衛隊岐阜基地は、現存する国内最古の飛行場であり、古くからこの地に飛行場があることで、航空機産業に関連する多くの企業が集積するなど、「ものづくりのまち」として発展してきました。

国内唯一の航空と宇宙の専門博物館である「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」は、昨年、航空自



【F-4ファントムII展示（岐阜かかみがはら航空宇宙博物館）】

衛隊岐阜基地で運用されていた戦闘機「F-4ファントムII」が防衛省の全面協力のもと展示機として仲間入りし、まちが誇る施設へと成長を続けています。そして、令和5年度は市制施行60周年の節目の年であるとともに、新庁舎が耐震化基本構想を策定してから約10年の年月をかけた完成しました。いつまでも親しまれ、信頼される市役所を目指して、市民サービスや防災拠点としての役割をしっかりと果たしていきます。



【（仮称）かかみがはら支援学校の完成模型】

また、子どもたちが住み慣れた地域で安心して学べるように、令和7年4月の開校を目指し、新特別支援学校「（仮称）かかみがはら支援学校」の建設工事を着実に進めていきます。

本市は「笑顔があふれる元気なまち」を目指し、人とのつながりを軸とした事業を積極的に展開しています。市民、地域、企業、団体等が結びつきを深め、あらゆる世代の皆様がしあわせを実感できる取組を推進していきます。

## 自衛隊との関わり

昨年は、8月に航空自衛隊岐阜基地主催の納涼祭が開催されますとともに、11月には航空祭が開催され、県内外より13万人を超える方が会場を訪れるなど、本市に賑わいを創出してくれました。また、自然災害が頻発する中、防災関係機関等の連携を強化するために実施している市の総合防災訓練においても、自衛隊の皆様が救助活動や炊き出しなどの実践的な訓練に協力いただいています。身近に自衛隊の皆様が存在することは大変心強く、さらに連携を深めていきたいと考えております。



【総合防災訓練の様子】

# 令和6年度能登半島地震に係る災害派遣活動



【統合幕僚監部HPより】

令和6年1月1日（月）に発生した能登半島地震において、防衛省・自衛隊は、同日以降災害派遣活動を継続して実施しています。

統合幕僚監部のホームページ（右記QRコード）から災害派遣活動状況が御覧いただけます。



## 採用関連のご案内

東海防衛支局では、国家公務員を志望する方を対象とした防衛省職員採用に関する説明会を随時実施しています。

説明会では、防衛省に関する説明や東海北陸地区に所在する防衛省4機関（東海防衛支局、陸上自衛隊、航空自衛隊、防衛装備庁）の業務説明のほか、自衛隊の駐屯地・基地において現場説明会も行っています。説明会への参加には事前申込みが必要です。詳しくは東海防衛支局のホームページ又は防衛省のホームページを御確認ください。

### 今後の予定

- 6月中旬 業務説明会【大卒程度採用対象】
- 6月下旬 現場説明会【大卒・高卒程度採用対象】
- 7月上旬 官庁訪問【大卒程度採用対象】
- 8月中旬 採用面接【大卒程度採用対象】



昨年度の現場説明会の様子

東海防衛支局ホームページ：「採用情報」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/saiyou/saiyou.html>

お問合せ先：東海防衛支局 総務課 052-952-8221



## 新着任者紹介（令和5年12月22日付）



令和5年12月22日付で次長（装備担当）に着任した田中です。

東海3県には自衛隊装備品等の防衛生産・技術基盤が多く所在しています。

皆様の御理解と御協力をいただけますよう尽力する所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

次長（装備）  
1等陸佐 田中 奈津夫

### 【発行】

東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1

名古屋合同庁舎第1号館

（電話）052-952-8212

2024年（令和6年）春号

（通巻第58号）

